

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

# ほっかいどうの社会保障

2020年8月13日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

**深刻な相談相次ぐ 雇用とくらしのSOS チカホ相談会**

**所持金 3000 円、当日生活保護申請した方も**



雇用・くらし・SOSネットワーク北海道と反貧困ネットワーク北海道は、8月11日、札幌地下歩行空間で、「雇用とくらしSOS 相談会」を行いました。弁護士、司法書士、医療ソーシャルワーカー、労働や生活、営業や子育ての専門家が相談に応じました。

相談者は23人、年齢は20代から70代と幅広く、相談内容は、生活費相談11件で全体の半数で、労働3件、法律3件、医療3件、心の相談2人、住宅1件でした。格差と貧困が広がる中、新型コロナウイルス災害も重なり、くらしが大変になっている相談が相次ぎました。

**注目された「持ち家でも利用できる場合も」の生活保護Q&Aポスター**

**「生活保護について知りたい」と総合案内に**

相談会では、大型ポスター（「生活保護Q&A」「労働相談Q&A」など）を張り出しました。道社保協発行の「道民のくらしに役立つハンドブック」の一部です。

ポスターの前に、多くの方が立ち止まり、「生活保護は、持ち家があっても利用できる場合がある」などの情報に注目が集まりました。

そのポスターを見て、「生活保護制度について聞きたい」と総合案内を訪ねる方も複数いました。



**新型コロナウイルスの影響で仕事が見つからず、蓄えで生活してきた50代の男性**

所持金はわずかに3000円でした。その男性は、持ち家で一人暮らしをしています。持ち家の場合は生活保護を利用できないと思っていたそうです。ポスターを見て、自分も利用できかもしれないと思い、総合受付に。

**即日申請、申請手続きも短時間**

相談した結果、生活保護利用の対象だったため、生活保護申請のため福祉事務所へ。相談会のスタッフも同行しました。生活保護の申請受付では、市の担当者が、生い立ちから聞きはじめました。新型コロナウイルス感染の拡大を抑えるために、聞き取りは最低限になっています。同行したスタッフは、市の担当者にその旨を伝え、「そうでした」と答え、申請手続きは短時間で終わりました。

**昨年10月から無職となり、蓄えで生活、医療費が1ヵ月2万円で療養中の40代男性**

マンションで一人暮らしです。医療保険は実家の親の扶養者。家賃は月4万円。コロナウイルス感染症の影響で仕事が見つかりません。今は、まだ蓄えが残っているので、所持金が少なくなったら、相談することになりました。

好評発売中

**道民のくらしに役立つハンドブック 2020-2021年版**

新型コロナウイルス感染症対策の制度も掲載

1冊200円 A5版 81ページ 申し込みは道社保協へ

